

うつつふ。私の所望する望みを叶えた者よ。

「誰?!」

うつつふ。我が望んだこたえた面白い答えを用意したもの y1。

「とりあえず、日本語喋ってください」

吾が望んだ者と思っている y、ことを今でも思うのです。

「何をやんね。トイレット。いい加減にしなさい」

私は知っているのよ。トイレには神があるということぐらいは。

「まじか!」

当たり前でしょ。紙があるということは神聖な聖地ということなのよ?

(CV.田村)

「誰よ」

まあいいけど、とにかく始まることを許可してくれ!

「はい」

というわけで今回もドキドキロックンロールが始まります!

「よろしくねえ!」

というわけで。

「さあ、何をする」

帰ります。

「ダメ。おじいさんとおじいさんとやらないかを歌いなさい」

おじいさんが二人きりで怪しげなことをやっていたらいけないよ？

「この時代の人にそのネタは止めなさい。腐女子のかたしかわからない根正」
相も変わらず、何を言っているの。

「いつものことですよ。思い出してほしいのは時々でいいから」

なんのことやねん。

「星空に飛行機が飛んでいるの見える？」

あなたの表情が映っているぐらいはわかる。

「じゃあ、星空に便所のことを伝えていい？」

貴男は何を言っているの？

「私は漢だということに気が付いたんだ。だ・か・ら。やらないか！」

知りません。というくあたしはw。

「何子？」

御年子。

「思いつきり、涙を流したいみなさん。ぼくのここ、空いていますよ！」
知らん。

「とにかく。だじえの存在を明らかにしてはいけないのです」
「なんでえ、あんたもおじいさんとやらないかなんですね？」

「やら、やら。わくわく。だじえだじえ」

「まて。一つ可笑しい。」

「やっぱりうどんだも年」

「美味しいわね。このおじいさん。一緒に食べたら血がさらに変わったの。」

「知らんが」

「な。」

「まあいいじゃん。おじいさんはいつも笑っているんだから」

「もういいよ！」